



【花が可愛いゴマ】

日本の食卓に欠かせないゴマは、縄文時代の遺跡から出土しており、天平時代には栽培の記録が残っている植物です。ただし現在はほとんどが輸入に頼っています。食品のゴマからサプリメントや漢方薬、ペースト、ゴマ油など栄養価が高く抗酸化作用があることから、インドでは「万能薬」、中国では「不老長寿の秘薬」といわれています。

ゴマ科の一年草で、アフリカが原産の世界で最も古い油糧作物のひとつです。日本に伝わった系統は、乾燥に強く高温期によく生育してあまり分岐しないグループで、低い位置の節から開花し、密に蒴果（さくか）をつける短日性の温帯型品種になります。

栽培ゴマには休眠がなく、適当な温度と水分があれば速やかに発芽します。高温多日照を好み、発芽適温は 25～30℃で地温が 20℃になれば種まきをします。1 cmほど覆土をして発芽するまで乾かさないようにすると数日で芽が出ます。初期生育はゆっくりですが 50 日を過ぎるころから急に大きくなります。細い主根が地中深くに伸び、細い細根を多く分岐させることによって地中の水分を効率よく吸収するので、生育後期の干ばつには強くなります。

花は白から淡い桃色で、茎の基部から 3～5 節目の葉腋から花芽がつき始め、頂部に向かって順次開花していく無限花序です。花は一日花で午前中に開花し、午後から夕方にかけて落下します。開花とほぼ同時に受粉する構造になっていて、アリやハチなどの訪花昆虫による他花受粉率は低くなっています。葉腋に付く花の数は遺伝的形質で、1 または 3 個の花がつきます。花の中に蜜腺がありますが、クマバチなどが花弁を破って外から蜜を吸っているのをよく見かけます。種子が成熟すると蒴果の先端が裂開して中の種子がこぼれ出るために、下の蒴果が 2～3 個裂開したら刈り取り、葉を取ってから乾かして後熟させます。種子がこぼれるので立てかけてしっかり乾かした後に、種子をたたいて取り出します。育てやすい作物ですが、種子の掃除が大変なことや機械化が進んでいないこと、連作ができないことなどで作付けは多くはなく、ほとんどが輸入に頼っています。

黒ゴマ、白ゴマ、金ゴマとさまざまな種子の色がありますが、金ゴマの栄養価が高いことから近年は金ゴマの品種改良が進んでいるようです。

当所では金ゴマを花壇に植えていますので、お近くに来られた時はのぞいてください。

（写真・文：奥井里実相談員）



ゴマの花



蒴果



花の上に穴をあけて蜜を吸う蜂

9月の花とみどりの講習会

家庭で簡単な野菜作り

内容：プランターなどでの野菜の作り方を学びます
日時：9月13日(土) 10時から12時まで
場所：花とみどりの相談所
講師：開発 基良さん(元同所相談員)
定員：24人
費用：500円
申込：9月6日(土) 9時15分から 先着順 電話可



種と草花を使ったかご飾りを作ろう

内容：種や草花を使ってかごの壁飾りを作ります
日時：9月20日(土) 10時から12時まで
場所：花とみどりの相談所
講師：阪野 芳子さん(草花・木の实ハンドメイド作家)
定員：16人
費用：1,700円
申込：9月13日(土) 9時15分から 先着順 電話可



イメージ画像

※当日気象条件による警報が発令された場合には
講習会を中止とさせていただきます。

9月におすすめの種まき【ハボタン】

●多粒播きで楽しんでみてはいかがでしょうか。

種まき：本来は7～8月に播く種を9月に播くと小さなハボタンになります。お好みの植木鉢・プランターなどに用土を入れ1cm角に1粒くらいの間隔で播き、軽く土をかけます。その後、半日陰に置き水を切らさないようにします。1～2日で発芽してくるのですぐ日に当て徒長しないようにし、暑い日には遮光ネットなどをして育てます。



寒くなってくると、色がついてくるのでそのまま楽しみましょう！

花とみどりに関する
相談を受け付けています
お気軽にどうぞ！

花とみどりの相談

相談時間

火曜日・木曜日の13時から16時30分まで
電話による相談も行っています。

9月の休所日

毎週日曜日・月曜日と16日(火)・23日(火)です。



豊中市 花とみどりの相談所

〒561-0804 豊中市曽根南町1丁目4番1号(豊島公園内) 阪急宝塚線 曽根駅南へ約500m

TEL 06-6863-8439

FAX 06-6863-3638